

# 事業評価調書（新規）

部課室名	水産課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	水産課長 大谷 和夫 (課長補佐兼漁場整備係長) (高木 英男)	内線	4149 (4163)
------	-----	---------------------	--	----	----------------

事業種目	漁場の整備	事業名	事業区間	総事業費	9.5億円	
		増殖場造成事業	播磨灘中西部地区	内用地補償費	-億円	
所在地				事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
姫路市家島町地先				H19	H19	H23
事業目的			事業内容			
<p>播磨灘中西部海域は、多種多様な沿岸漁業が営まれ、漁業生産の一大拠点となっている。</p> <p>一方漁場利用面では家島諸島周辺の島嶼部等を除き、変化に乏しい砂泥底が広がり、輻輳した漁業操業が行われている。</p> <p>また、有用水産物の資源は沿岸域の開発による藻場・干潟の減少や漁獲圧力の増大等により減少してきている。</p> <p>このため、瀬戸内海再生の一環として播磨灘中西部海域に石材を主に用いて天然の瀬を模倣した大規模な増殖場を造成する。</p>			<p>対象生物：メバル、カゴ、カレイ、タイ、スズキほか 事業量：20ha (自然石、鋼製魚礁) 事業主体：兵庫県 事業費内訳：国 50%、県 50%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	<p>播磨灘中西部海域は5トン未満の小型漁船を中心に底びき網、船びき網、刺網、釣等多種多様な漁船漁業が営まれている。</p> <p>しかし当海域は、家島諸島周辺の島嶼部を除くと砂泥域が広がっており、漁場が乏しく、限られた漁場で多くの漁船が操業するため水産資源の減少が懸念される。</p> <p>そこで、今回の増殖場は、同海域の特徴である砂泥域の新たな整備手法として、石材マウンドの造成による大規模な人工瀬を造成し、メバル、カサゴ、スズキ、マダイ、カレイ等複合的な魚種の増殖場を造成しようとするものである。</p>					
(2)有効性・効率性	<p>当増殖場の造成によって、年間の漁業生産量105トンの増産が見込まれ、費用便益比は1.45と算定され、有効な事業である。</p> <p>播磨灘中西部地区は多様な沿岸漁業が盛んであり、瀬戸内海における漁業生産の一大拠点として機能している。このことから、増殖場の造成による生産増大効果が最も発現される地域であり、地元漁業者、地域自治体の期待も大きく、漁協、自治体の事業実施及び施設の維持・管理に関する協力体制も確立している。</p>					
(3)環境適合性	<p>本事業は、播磨灘中西部において水産生物の最適な生育環境の創造を図る事業であり、環境に適合している。</p>					
(4)優先性	<p>本事業は中播磨地域農林水産ビジョン2015で、先導するモデル事業として位置づけられおり、優先性の高い主要事業である。</p> <p>当地区に広がる砂泥底海域を利用した新たな漁場整備事業は、有用水産物の成育の場を増大させることとなり、播磨灘全域の水産資源の増大にとって重要である。</p>					